

編集後記

★ 連日、FIFA ワールドカップ 26 で熱戦が繰り広げられています。私もサッカー部出身として早朝テレビ観戦のため寝不足の日々が続いております。本号が発刊されるころにはもう大会も終わっていますが、われらが日本代表はどうだったでしょうか。

★ 本大会で日本や諸外国の試合をみるにつけ、ミドルシュートによるファインゴールが目につきます。こちらは個々の選手のスキルアップや選手の身体能力向上によるところもあるとは思いますが、「サッカーボール」の進化もあるかもしれません。今回の公式球「トリオンダ」を購入してみました。感想としては、「非常に蹴りやすい」、「シュートスピードも出やすいいうえに、回転もかかりやすい」印象があります。

★ かなり昔のボールは革製で、水を含むと重くなり、強く蹴っても速度が落ちやすいものでした。また、縫い目やパネル構造も現在ほど均一ではなく、キックの再現性は低いものでした。私の子供のころは「タンゴ」に代表される人工皮革が登場し、ボールが軽量化しました。さらに近年の公式球は人工皮革、熱接着、少数パネル化、表面加工などにより、軽量性、反発性、防水性、

空力性能が大きく向上したと言われております。この変化により、ミドルシュートの価値がより高まったと言えます。強く蹴った際に初速が出やすく、インステップで低く速い弾道を打ちやすくなりました。さらに、無回転または低回転で蹴ると、空気の流れが不安定になり、ボールが左右・上下に揺れます。いわゆる「ブレ球」であります。ゴールキーパーにとっては、単に速いだけでなく、最後に軌道が変化するため処理が難しくなります。正面に飛んだシュートでも、キャッチではなく弾く

選択になりやすく、セカンドボールから得点機会が生まれます。つまり、ミドルシュートは直接得点だけでなく、こぼれ球を誘発する攻撃手段にもなります。

★ 一方で、現代サッカーでは、守備組織が整備され、ペナルティエリア内に人数をかけて中央を閉める傾向が強くなりました。ゾーンディフェンスやハイプレスの発達により、ゴール前で自由に崩す時間は短くなりました。その結果、バイタルエリアで少しでも

前を向けた瞬間に、遠めから打つ判断が重要になっております。特に相手守備が低く密集している場合、細かく崩すよりも、ミドルシュートで守備ブロックの外からゴールを狙うことが有効な場面が増えております。グループステージでも数多くのミドルシュートがみられておりますが、ノックアウトステージでもさらに素晴らしいミドルレンジからのゴールが生まれることでしょう。

(吉井俊貴)



プレトリアの噴水
(シチリア)

石垣正美 画
2026-8

顧問	林 浩一郎	石井良章	中村孝志	高岡邦夫	四宮謙一	岩本幸英
	星野雄一	越智光夫	遠藤直人	大川 淳		
編集	松田秀一	竹下克志	安達伸生	稲葉 裕	吉井俊貴	

臨床雑誌 整形外科 77巻・9号(8月号, 第936冊)
編集兼発行者 東京都文京区本郷三丁目42-6
印刷所 東京都江東区亀戸七丁目2-12

2026年8月1日 発行
小 立 健 太
三報社印刷株式会社

発行所 株式会社 南江堂 〒113-8410 東京都文京区本郷三丁目42-6 編集 TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660
https://www.nankodo.co.jp/ 営業 TEL 03-3811-7239

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利は、(株)南江堂が保有します。

JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

広告申込所: 〒113-0033 東京都文京区本郷5-24-6 本郷大原ビル6階 文京メディカル TEL 03-3817-8036